

未来に開く！アジアの扉、世界の扉。エネルギー関西ここにあり シンポジウム『関西メガ・リージョン活性化構想』開催

日 時 : 平成 21 年 7 月 9 日(木) 14 時~17 時 (受付開始予定 13 時 30 分)
会 場 : リーガロイヤルNCB「淀の間」
主 催 : (財)関西社会経済研究所
共 催 : 近畿経済産業局、(社)関西経済連合会、大阪商工会議所



今年 3 月に近畿経済産業局が策定した関西活性化策につき産官学の視点から意見交換する上記シンポジウムを 7 月 9 日にリーガロイヤルNCB淀の間で開催し、220名の参加者が集まった。

基調講演では、稲田甲南大学経済学部教授から構想誕生の背景と論点が、平工近畿経済産業局長から構想の意義と成長戦略が述べられた。本構想は関西を広域としてとらえ経済再生の起爆剤にしようとするもので46のアクションプランの提案がなされている。第二部のパネルディスカッションでは構想をテキストに見立て、産官学代表のパネリストが関西の強み・弱みや課題について議論した。主な民間企業サイドからの指摘は下記の通り。

- ①製造業の足腰を支える産業集積が関西の強みだが、新規事業を生む異業種との連携・融合が充分でない。
- ②中堅・中小企業がアジアへの今以上の進出が可能ないように基礎作りをしてほしい。
- ③特に医薬業界では、東京に許認可権限が集中しているため『自分のところが一番と思っても力が発揮できない』という壁が立ちはだかっている。創薬ベンチャーを優遇する施策などリスクがあっても新たな展開を図るべき。

これらに対して、行政からは、

- ①民間主導の成長を支えるために大阪府が取り組む環境整備
- ②国と地方の役割分担の見直しに関するスタンス

等の議論があった。詳細は、添付資料及び後日掲載予定の会議録をご参照ください。

[資料 \(稲田教授\)](#)

[資料 \(平工局長\)](#)